

成果の説明書

(氏名) 井上 真由美	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>(1) 「官立高等商業学校における商業倫理教育」に関する調査・研究 昨年度の研究「草創期の神戸高等商業学校における倫理教育」の研究に引続き、神戸高等商業学校と同時期に設立された官立高等商業学校の徳育の実践とその背景について研究を行った。本研究による成果は、以下の通りである。</p> <p>①企業家研究フォーラム年次大会での報告「日本商人不道德論と高等商業学校における商業倫理教育」(2017年7月16日、於 大阪大学)</p> <p>②2017年度『講座・企業家学』(企業家研究フォーラム・大阪商工会議所共催)での講演「出光佐三と神戸高商―士魂商才の教えとその背景―」(2017年11月18日、於 大阪産業創造館)</p> <p>(2) 日本の起業に関する論壇の執筆 「「起業大国」化に関するいくつかの論点」『商工金融』(商工総合研究所)第67巻第7号、2017年7月</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>【教育活動】</p> <p>(1) 社会企業家の講演会に参加(ゼミ活動) 今年度4月17日に群馬産業技術センターで開催された講演会「ものづくりベンチャー世界への挑戦―心臓外科手術トレーニングシュミレータの開発と事業化―」(群馬県ものづくり技術研究会主催)にゼミ生と参加した。講演者のイービーエム株式会社社長の朴栄光氏は、大学院時代からはじめた医師が使用する心臓外科手術トレーニング用シュミレータの開発と事業化のプロセスについて話をされた。世界各国の心臓外科手術の技術向上に貢献する大学発ベンチャーは、学生たちの視野を広げたようである。</p> <p>(2) 産業集積地の存続要因に関する研究と企業訪問(ゼミ活動) 新潟県の燕三条は高度な金属加工技術をもつ企業の集積地として知られる。この産業集積地が長期にわたり存続してきた理由についてゼミ生が研究を行った。その一環として、この地にあるスノーピーク株式会社と株式会社諏訪田製作所を訪れた。両社の社員の方から直接話をうかがい、学生たちは両社の商品のグローバルブランド化の達成要因、地域企業との密な取引関係、そして各種支援機関によるサポートについて知ることができた。 また燕市産業史料館を訪問し、産業集積地全体の歴史的な変遷と度重なる外部環境の変化に集積地としてどのように対応したのかを学んだ。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

平成 30 年度は、引続き「高等商業学校の商業倫理教育」に関する調査研究を続ける計画である。その一環として、特に渋谷栄一と高等商業学校の教育との関わりについて調査する予定である。

【教育活動】

昨年度に引続き、フィールドワークを活用したゼミ活動を行い、学生が理論と実際との関係が理解できるような機会を設けたい。